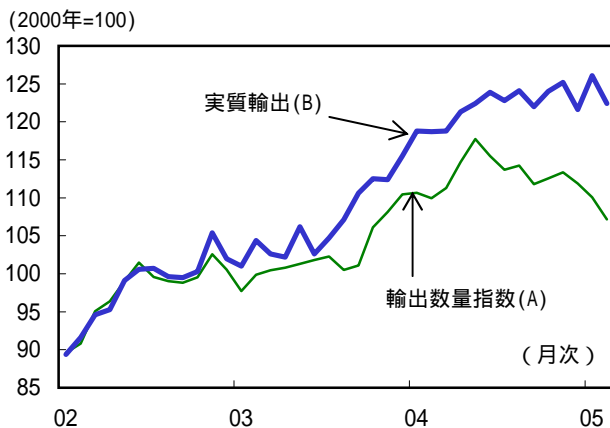


輸出指標の乖離と景気判断

- ・ 実質的な輸出の動きをみるに際し、同一の名目輸出金額を輸出価格指数で除した「輸出数量指数」と、輸出物価で除した「実質輸出」があるが、このところ両者の乖離が目立つ。
- ・ この乖離は、各々の分母である輸出物価と輸出価格指数の伸びの違いに起因するが、高付加価値品目の構成比上昇や品質の向上を織り込むかどうかの違いをもたらしている可能性が高い。このことは、品質向上が著しいと考えられる電気機器で違いがより顕著にみられることからもうかがわれる。
- ・ この計算方式の違いによる両指数の乖離が、内閣府（主に輸出数量指数で判断）と日銀（主に実質輸出で判断）の輸出に関する判断の違いの一因としてあると考えられる。

図表 1 . 輸出数量指数と実質輸出の乖離



(備考) 1. 財務省「通関統計」、日本銀行「実質輸出入」により作成。
2. 季節調整値。
3. 輸出数量指数(A)=輸出金額(名目)/輸出価格指数(a)
実質輸出(B)=輸出金額(名目)/輸出物価(b)

図表 2 . 内閣府と日銀の景気判断(輸出部分)

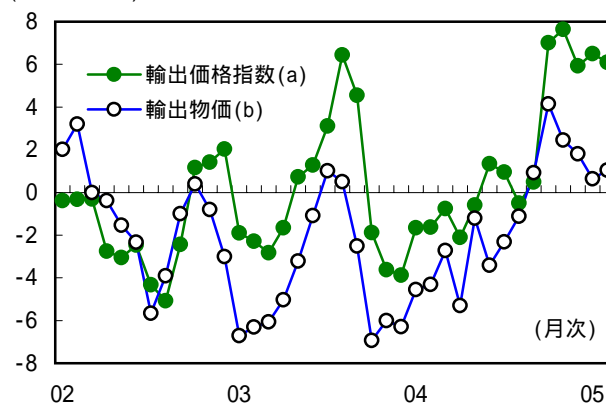
	内閣府	日銀
04年10月	緩やかに増加している	このところやや伸びが鈍化しているが、(中略)増加が続いている
11月	このところ弱含みとなっている	足もとは横ばい圏内の動きとなっている
12月		
05年1月		横ばい圏内の動きが続いている
2月	弱含みとなっている	
3月		持ち直しつつある
4月		

(備考) 内閣府「月例経済報告」、日本銀行「金融経済月報」により作成。

図表 3 . 輸出価格指数と輸出物価の違い

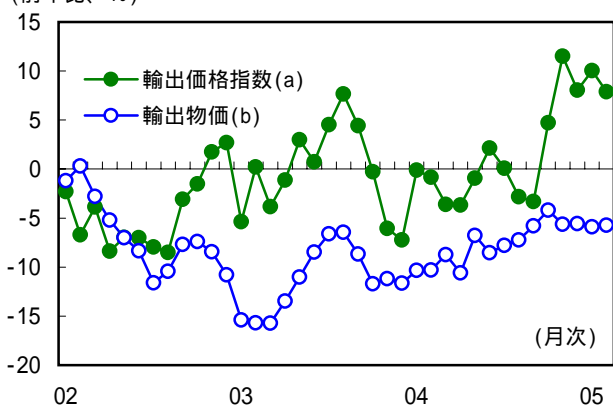
	輸出価格指数(a)	輸出物価(b)
価格の取り方	同一品目の種々の銘柄の平均単価	調査銘柄を指定し、継続調査
品質調整	なし	ヘドニック法等を採用
ウェイトの仕方	フィッシャー方式	ラスパイレス方式

図表 4 . 輸出価格の推移



(備考) 財務省「通関統計」、日本銀行「金融経済統計」により作成。

図表 5 . 輸出価格(電気機器)の推移



(備考) 財務省「通関統計」、日本銀行「金融経済統計」により作成。

[調査部(経済調査担当) 加賀林 陽介]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp